

## Case Study 6

# 株式会社カンセキ

## 安全～安心の確保へ

### Data

対象事業： 栃木県内ホームセンター

対象リスク： 大規模地震

被災シナリオ： 栃木県内において、冬期、平日、夜間に  
震度7の地震が発生

事業継続策： ホームセンター事業の早期再開



企業名 株式会社カンセキ

代表者名 長谷川 静夫

### Q 御社の事業内容は？

ホームセンター27店舗を始め、アウトドア用品のWILD-1（ワイルドワン）18店舗、業務用食材の業務スーパー12店舗、リユース商品のオフハウス9店舗、その他4店舗、計70店舗を有する小売業であります。この内、栃木県内の事業所数は45店舗となっております。

### Q 今回BCP策定に取り組まれた理由を教えてください。

東日本大震災を経験し、従業員は多くの事を体験し、学びました。当社も多くの被害が発生しましたが人災には至らず、多くの顧客、取引先、社員に支えられ事業を早期に再開いたしました。これらの経験を記録し、検証することにより、同様のリスクが発生しても、顧客及び従業員への安心を確保するため、BCPを取り入れまとめることといたしました。

### Q 策定したBCPの主な内容（ポイント）を教えてください。

顧客・従業員の人命、顧客への商品供給、地域社会への影響をキーワードに目標・方針を定め、ホームセンターを中核事業と位置付け、厳しい状況下でのリスク想定をしました。今後は、システムやライフラインが停止しても、手持ち在庫については、早期に販売が可能となるよう、又、県外店舗からの商品移動により、一品でも多く販売できるよう整備する予定です。

### Q 今後の課題と方向性について教えてください。

整備した内容が有効に機能するか否かを継続的に検証し手直ししていくことにより、社内への定着化を図ります。そして、社内教育や訓練を通じ、中・長期的にBCPを企業風土に根付かせたい考えです。現時点では、小売業としての供給責任を果たせるまでのレベルにはないため、継続して取り組むことにより、様々なステークホルダーからの要請に応え、企業価値向上を目指します。

### Q BCPを策定した感想をお願いします。

真価が問われるのは実際の有事の際であり、計画の策定完了ではなく、今後ともPDCAのマネジメントサイクルを回していくことが重要であると考えています。策定段階では、様々な業務改善の必要性が浮上したり、災害諸規程の不備も発見され、リスクマネジメント全体が強化された結果となりました。

商号	株式会社カンセキ
本社所在地	栃木県宇都宮市西川田本町3-1-1
設立	昭和50年2月
資本金	19億2600万円
従業員数	正社員353名 準社員183名 パートタイマー114名
代表者	長谷川 静夫
事業内容	ホームセンター・WILD-1及び専門店 事業の経営
URL	<a href="http://www.kanseki.co.jp">http://www.kanseki.co.jp</a>